

日本におけるチェコ文化年2017

# チェコ映画の全貌

# NFC

## NFC CALENDAR

大ホール(2階)

日本におけるチェコ文化年2017  
チェコ映画の全貌

Tracing the Czech Cinema at The Year of Czech Culture 2017

2017年11月28日(火) - 12月24日(日)

主催: 東京国立近代美術館フィルムセンター

チェコ国立フィルムアーカイブ

チェコセンター東京

協力: ペトル・ホリー(チェコ蔵主宰, 女子美術大学講師)

# NFA



チェコセンター  
CESKÉ CENTRUM

◆開館と同時に、当日上映される全ての回の入場整理券を1階ロビーにて発券します。各日の開館時間についてはスケジュール欄をご覧ください。

12月の休館日:

月曜日, 12月25日(月) - 2018年1月3日(水)

大ホール

各回の開映後の入場はできません。

定員=310名(各回入替制) \*ピアノ伴奏付きのプログラムは299席

料金

一般520円/高校・大学生・シニア310円/小・中学生100円/  
障害者(付添者は原則1名まで)、キャンパスメンバーズは無料

★ピアノ伴奏付き上映の回

一般1,050円/高校・大学生・シニア840円/小・中学生600円/  
障害者(付添者は原則1名まで)は無料/キャンパスメンバーズ料金あり(教職員500円, 学生400円)

観覧券の発券=2階受付

- 観覧券は当日・当該回のみ有効です。
- 観覧券の発券・開場は開映の30分前から行い、定員に達し次第締切りです。
- 学生、シニア(65歳以上)、障害者、キャンパスメンバーズの方は、証明できるものをご提示ください。
- 観覧券の発券は各回1名につき1枚のみです。

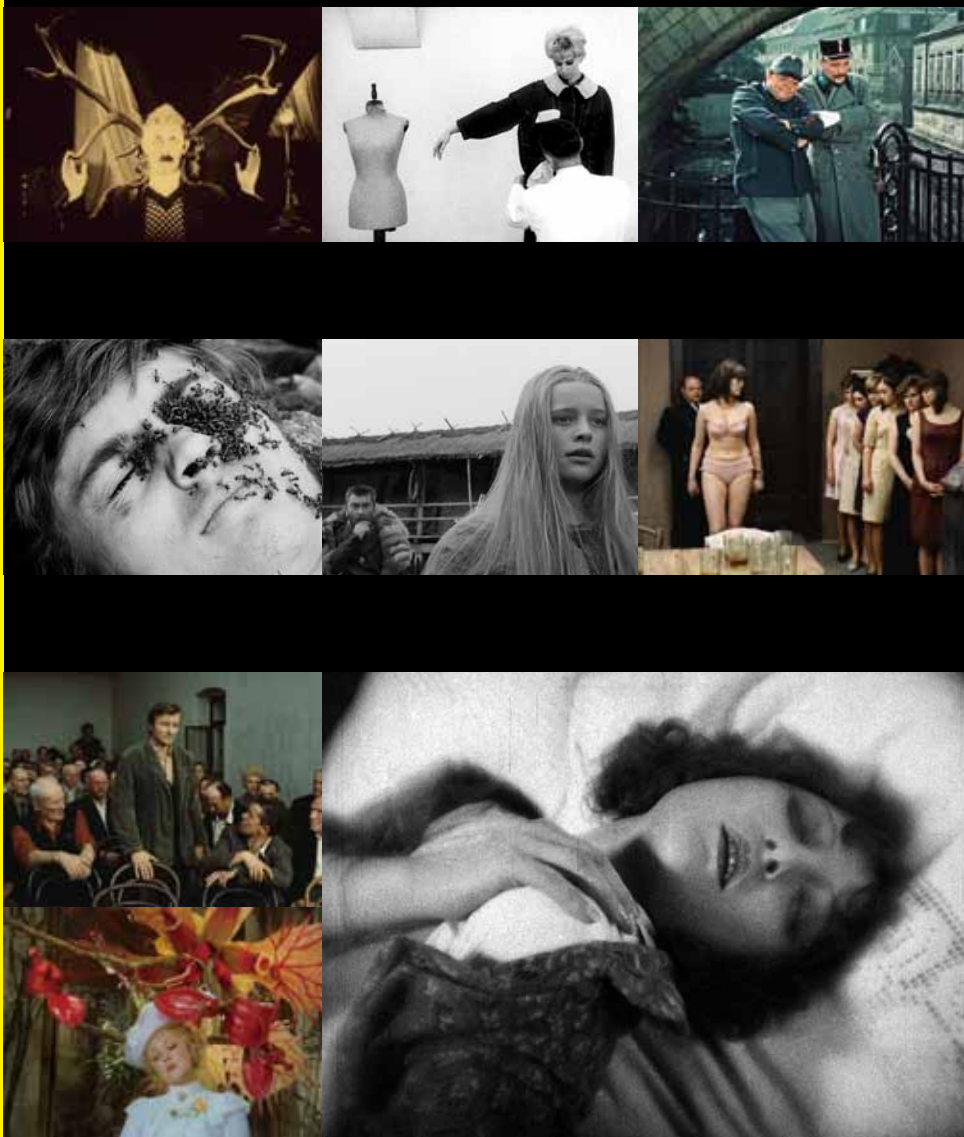


東京国立近代美術館フィルムセンター

National Film Center  
The National Museum of Modern Art, Tokyo

長瀬映像文化財団

フィルムセンターは長瀬映像文化財団の支援を受けています。



「日本におけるチェコ文化年」の本年、フィルムセンターでは、チェコ国立フィルムアーカイブ(NFA)、チェコセンター東京と共同で、当館初となるチェコ映画特集を開催します。20世紀のチェコは、オーストリア=ハンガリー帝国下の時代(~1918)から、チェコスロヴァキア(第一共和国)時代、ナチス・ドイツによる占領と戦後の解放、社会主義共和国時代(1948~1992)、チェコ共和国時代(1993~現在)と、激動の歴史を歩んできました。そうした歴史の変遷の中にあいながらもチェコの映画人たちは、同時代の先端的な文化を探り入れ、自由奔放な想像力や鋭い社会風刺に満ちた独創的な映画を作り続けてきました。彼らの独創性は、チェコ国立フィルムアーカイブの設立(1943)、映画産業の国有化(1945)、舞台芸術アカデミー映画テレビ学部(FAMU)の開設(1946)といった、映画を国民文化として大切に育もうとする動きにも支えられていました。1960年代に起こった「チェコ・ヌーヴェルヴァーグ」は、その最良の成果と言えるでしょう。

本企画では、1920年の『大聖堂の建築者』から1978年の『アテラ/ニック・カーター、プラハの対決』まで、7本の無声映画を含む26本(24プログラム)のチェコ映画を上映します。知られざるチェコ無声映画の豊饒さから、リアリズムの実験作や大ヒットコメディなど多種多様なトーキー時代、チェコ・ヌーヴェルヴァーグ、そしてトリック撮影や活劇精神に溢れた1970年代の娯楽作まで、驚きに満ちたチェコ映画の世界を、まとまった形でご覧いただくことができる絶好の機会となります。皆さまのご来場をお待ち申し上げます。

2017  
12

NFCカレンダー  
2017年12月号

# 大ホール 上映作品

日本におけるチェコ文化年2017  
チェコ映画の全貌  
Tracing the Czech Cinema  
at The Year of Czech Culture 2017

- 監督 ●原作・原案 ●脚本・脚色 ●撮影
- 美術 ●音楽 ●出演
- 特集には不完全なプリントが含まれていることがあります。
- 上映作品にはすべて日本語字幕が付いています。
- 記載した上映分数は、当日のものと多少異なることがあります。
- ★印の回はピアノ伴奏付きで上映します。

1 11/28(水)3:00pm 12/3(日)4:00pm★

## 大聖堂の建築者 (40分・DCP・無声・染色・チェコ語インタータイトル)

STAVITEL CHRÁMU

新大聖堂の天井建築を任せられた建築家ペトル(デイル)は、完成への不安から、愛する娘(ヴルフリツカ)が止めるのも聞かず悪魔(フルト)に魂を売り渡してしまう。だが娘は溺死してしまい、ペトルは激怒した職人たちに襲撃され、追いつめられる。主人公のモデルは、中世の大建築家ペトル・パルレーシュ。ロケーションと建築が共に魅力的。

1920(テグル兄弟社)●カレル・テグル、アントニン・ノヴォトニー ●ヴラジミール・シュラメク、ヤン・エミル・コウラ ●インドジビ・プリファ ●ヨゼフ・ヴェニク ●ルドルフ・テイル、エヴァ・ヴルフリツカ、カレル・コラル、ヤクブ・サイファ、ヤロスラフ・フルト

## 暗闇の訪れ (65分・DCP・無声・白黒・チェコ語インタータイトル) PŘÍCHOZÍ Z TEMNOT

古城の塔で16世紀から眠っていた死者(ラマチ)が錬金術で蘇り、生前の思いを遂げようとする。美しい撮影とロケーション、端正な編集が魅力のファンタジー・ホラー。監督のコラルはのちに映画史家・批評家としても活躍。ヒロインのオンドラーコヴァーは、やがてアニー・オンドラの名で国際的女優として活躍し、ヒッチコックの『恐喝』(1929)等にも出演。カレル・ラマチは監督としても活躍、オンドラの盟友だったことでも知られる。

1921(レックスフィルム)●ヤン・スタニスラフ・コラル ●カレル・ホロウハ ●オト・ヘレル、オト・ホフマン ●フリツ・クランケ ●テオドル・ビシュチェク、アニー・オンドラーコヴァー、ヨゼフ・シュヴァーブ・マロストランスキー、カレル・ラマチ、ルイジ・ホフマン、ヴラジミール・マエール、アルフレット・バシュティエーシュ、ルドルフ・ミゼット

2 11/28(水)7:00pm 12/2(土)12:00pm★

## 悪党の女たち (113分・DCP・無声・染色・チェコ語インタータイトル・英語字幕付き)

MILENKY STARÉHO KRIMINÁLNÍKA

見知らぬ婚約者(オンドラーコヴァー)を追い払おうと若者(シュベルグ)が叔父(ブリアン)を身代りに立てるが、刺激好きの彼女は有名ギャングに瓜二つの叔父に夢中になってしまい…。オンドラーコヴァーの体を張った演技、ブリアンの芸も見どころの大暴走コメディ。監督のイネマンは幅広いジャンルで活躍し、無声時代に人気コメディ映画を多数監督した。2014年に復元された染色版。

1927(アグロ・フィルム カヴァリールカ・スタジオ)●スヴァトブルク・イネマン ●ヨゼフ・スクルジエニー ●エルマル・クロス ●オト・ヘレル ●アロイス・メツェラ ●ヴラスタ・ブリアン、アニー・オンドラーコヴァー、ヤン・W・シュベルグ、ベティ・キシルコヴァー、ヴィエラ・フラヴァター、インドジビ・ブラフタ、ルドルフ・スーヴァ

3 11/29(木)3:00pm 11/30(木)7:00pm★

## バタリオン (99分・DCP・無声・白黒・チェコ語インタータイトル・英語字幕付き)

BATALION

妻(リヴィア)の不貞を目撃した名士ウヘル(ハシュレル)は、それまでの人生を捨て、酒場バタリオンにたどり着く。貧民たちのリーダーとなる一方、酒で身を持ち崩していく彼は、判事の娘オルガ(コヴァレフスカ)や神父(シュタインスベルク)の助けを得て立ち直ろうとするが…。写真と前衛的手法を併用して描く、無声期チェコ映画を代表する作品の一つ。

1927(ブシェミスル・ブラシュスキー)●ブシェミスル・ブラシュスキー ●ヨゼフ・ハイス・ティーネツキー ●ヤロスラフ・ブラジエク ●アロイス・メツェラ ●カレル・ハシュレル、フロニスラヴァ・リヴィア、カレル・ノル、エマン・フィアラ、エヴジェン・ヴィシュネル、カレル・シュヴァルツ、ネリ・コヴァレフスカ、フロレンティン・シュタインスベルク

4 11/29(木)7:00pm 12/2(土)4:30pm★

## エロティコン (89分・DCP・無声・白黒・チェコ語インタータイトル)

EROTIKON

アンドレア(リナ)は絶望を乗り越えて幸福な結婚をするが、かつて自分を棄てた男(フヨルト)と再会してしまう…。映画史上初とされるヌードシーンが登場する『春の調べ』(1933)で世界的に知られるG・マハティアーが、同作に先立ち発表した、性と欲望についての探究。同時代のさまざまな映画スタイルを駆使して人物の心理を掘り下げた。サウンド版も作られたが、今上映するのは1993年に復元された無声版。

1929(ゲー・エム・フィルム)●グスタフ・マハティアー ●ヴィーチェスラフ・ネズヴァル ●ヴァーツラフ・ヴィーヒ ●J・マホニ、アレグサンダー・ハッケンシュミット、ユリウス・フォン・ホルツァー ●エルノ・コシュチャール ●イナ・カレル・シュライヘルト、オラフ・フヨルト、ルイジ・セルヴェンティ

5 11/30(木)3:00pm 12/1(金)7:00pm★

## これが人生 (75分・DCP・無声・白黒・チェコ語インタータイトル・英語字幕付き)

TAKOVÝ JE ŽIVOT

家庭を顧みない夫(ビシュチェク)、妊娠に悩む未婚の娘(ジェニー・シュコヴァー)を抱えた実直な洗濯女(パノフスカ)の悲劇。ドイツの監督ユンハンスはドキュメンタリー映画の監督として活躍したのち、ビシュチェクの資金援助を得てこの長篇劇映画第一作を完成させた。台詞字幕がなく、徹底的なリアリズムを追求した本作には、同時代のソヴィエト映画の影響が指摘されている。主演はブドフキンの『母』(1926)のパノフスカ。原版は存在せず、現存する最も古いプリント(1950年)から2016年に復元された。

1930(テオドル・ビシュチェク、ヴァーツラフ・ブカッチ) ●カール・ユンハンス ●ラースコ・シェファール ●エルンスト・マイヴェルス ●ヴェーラ・パノフスカ、テオドル・ビシュチェク、マリー・ジェニー・シュコヴァー、W・ツィルツェル、インドジビ・ブラフタ、M・ケレロヴァー、E・レドロヴァー、ベティ・キシルコヴァー、M・ケルネル

6 12/1(金)3:00pm 12/3(日)12:00pm★

## 勇敢な兵士シュヴェイク (79分・DCP・無声・白黒・チェコ語インタータイトル)

OSUDY DOBRÉHO VOJÁKA ŠVEJKA

世界中で知られる兵士シュヴェイクの物語は、本国チェコでもたびたび映画化されてきた。本作は、1926年に製作された最初期の『シュヴェイク』の3本(Dobrý voják Švejk, Švejk na frontě, Švejk v ruském zajetí)を再編集して1本の作品にしたもの。いずれの作品でもシュヴェイクを演じたカレル・ノルは、原作者のハシェクからもお墨付きをもらうほどハマリ役だった。

1930(グロリアフィルム)●マルチン・フリツ ●ヤロスラフ・ハシェク ●ヴァーツラフ・ヴァッスルマン、カレル・ヴァニェク、スヴァトブルク・イネマン ●オト・ヘレル、ヴァーツラフ・ヴィーヒ ●ヴィレム・リッテルスハイ、アロイス・メツェラ ●カレル・ノル、アントニエ・ネドシンスカー、カレル・ラマチ、テオドル・ビシュチェク、フェレンツ・フトウリスタ、ヤン・W・シュベルグ

7 12/5(水)7:00pm 12/7(木)3:00pm

## 絞首台のトンカ

(87分・DCP・パートトーキー・白黒・フランス語インタータイトル・英語字幕付き)

TONKA ŠIBENICE

サウンド・オン・フィルム方式で全篇に音が付されたチェコ初のトーキー映画。当初無声映画として製作されたため、台詞のほとんどはインタータイトルで示されるが、1シーンだけ発音がなされている。チェコ語版、独語版、仏語版が同時に製作されたが、今回上映するのは唯一全篇現存する仏語版。現在のスロヴェニアに生まれ、『エロティコン』に抜擢されて一躍世界的スターとなったイタ・リナが、黄金の心を持った娼婦の転落を熱演し、強い印象を残す。

1930(アントンフィルム)●カレル・アントン ●エゴン・E・キッシュ ●ベン・ヴィニー、ヴィリ・ハース ●エドゥアルト・ヘッシュ ●フランチェク ●ボネシュ、ハヌシュ ●ゲダート ●エルノ・コシュチャール、カレル・ハシュレル ●イタ・リナ、ヴェーラ・パノフスカ、ジャック・マイロン、ヨゼフ・ロヴェンスキー、アントニエ・ネドシンスカー、インドジビ・ブラフタ

8 12/5(水)3:00pm 12/9(土)12:30pm

## 土曜から日曜へ

(73分・DCP・白黒・英語字幕付き)

ZE SOBOTY NA NEDĚLI

タイピストのマーニャ(マゼロヴァー)は、同僚に誘われて紳士二人とナイトクラブへ行くが、彼らの魂胆に気づいて逃げ出す。労働者の酒場にたどり着いた彼女は、感じのよい植字工(ストゥルナ)に好意を抱く。男女の恋の喜びと、映画が音を得た喜びとが、あたかも同調しているかのようなマハティアーの初期トーキー。2曲の挿入歌はチェコのスタンダード・ナンバーとなった。2016年に復元。

1931(AB)●グスタフ・マハティアー ●ヴィーチェスラフ・ネズヴァル ●ヴァーツラフ・ヴィーヒ ●アレグサンダー・ハッケンシュミット ●ヤロスラフ・イェジク ●マグダ・マジェロヴァー、ラジスラフ・ヘルベルト・ストゥルナ、イジナ・シェイパロヴァー、カレル・イチーンスキー

9 12/6(木)7:00pm 12/8(金)3:00pm

## サイレン (78分・DCP・白黒) SIRÉNA

同名小説を原作とし、1889年にブラハ郊外の鉱山で起こった大ストライキとその鎮圧までを、労働者のフデック(ボハーチュ)一家を中心に描く。特に女性と子供の視点が重視され、労働者階級の苦しみと希望を描くことに賭けているかのような本作には、幻想的な美しさも共存。ヴェネツィア国際映画祭グランプリを受賞し、第二次大戦後のチェコスロヴァキア映画に国際的な注目を集めた。

1947(チェコスロヴァキア国営映画社)●カレル・ステクリー ●マリエ・マイロヴァー ●ヤロスラフ・トゥザル ●シュチェパーン ●コベツキー ●エミル・フランチシェク ●ブリアン ●マリエ・ヴァーショヴァー、ラジスラフ・ボハーチュ、パヴラ・スハー、ナジェジュダ・マウエロヴァー

10 12/6(木)3:00pm 12/9(土)4:00pm

## クラカチット (102分・DCP・白黒・英語字幕付き) KRAKATIT

K・チャペクの同名小説を映画化。「クラカチット」とは強力な原子爆弾の名であり、その発明を悔やむ化学者プロコプ(ヘゲル)が、爆弾の使用と製造を止めるべく奮闘する。映画はプロコプの、夢とも幻想とも付かない主観的な語りによって、陰影に満ちた映像と共に展開し、SFノワールでも形容すべき破滅的な世界を描き出す。オリジナルネガ(画)とデュープボジ(音)から2016年に復元。

1948(チェコスロヴァキア映画協会)●オタル・ヴァーヴラ ●カレル・チャペック ●ヤロスラフ・ヴァーヴラ ●ヴァーツラフ・ハヌシュ ●ヤン・ザースウォルカ ●イジー・スルンカ ●カレル・ヘゲル、フロレンス・マーリー、フランチシェク・スモリーク、ナタシャ・タンスカー、ミロスラフ・ホモラ、ヤロスラフ・ブルーハ、イジー・ブラヒ

11 12/7(木)7:00pm 12/10(日)1:00pm

## お人好しの兵士シュヴェイク

(111分・DCP・カラー・英語字幕付き)

DOBŘÝ VOJÁK ŠVEJK

『勇敢な兵士シュヴェイク』同様、ハシェクの大人気小説の映画化で、続篇『閣下に報告』と合わせて、最も有名なバージョンとされる。1914年、サラエヴォ事件が勃発し戦争の気配が漂う中、商人シュヴェイク(フルシーンスキー)が、ひよんなことから愚か者の烙印を押され、神父(コベツキー)、続いて中尉(ベネシュ)に仕えるようになる。彼の愚直さが権威や戦争を否定していく風刺劇。2016年にオリジナルネガとサウンドネガから復元。

1957(バランドフ撮影所)●カレル・ステクリー ●ヤロスラフ・ハシェク ●ルドルフ・スタール ●ジュニア ●ボリス・モラヴェツ ●ヤン・サイドル ●ルドルフ・フルシーンスキー、ミロシュ・コベツキー、スヴァトブルク・ベネシュ

12 12/8(金)7:00pm 12/10(日)4:00pm

## 閣下に報告 (96分・DCP・カラー・英語字幕付き) POSLUŠNĚ HLÁSÍM

『お人好しの兵士シュヴェイク』の続篇。シュヴェイク(フルシーンスキー)は、前線への異動を命じられた中尉(ベネシュ)に付いていくが、案の定至る所で軍人らしい行動から逸脱し、中尉ともはぐれてしまう…。シュヴェイクのトリックスターぶりは今作で一層磨きがかかり、軍隊組織の価値観をこごとく転覆させていく。2016年にオリジナルネガ(画)、デュープボジ(音)から復元。

1958(バランドフ撮影所)●カレル・ステクリー ●ヤロスラフ・ハシェク ●ヤン・ロット ●ボフミル・ポコルニー ●ヤン・サイドル ●ルドルフ・フルシーンスキー、スヴァトブルク・ベネシュ、ミロシュ・ネドバル

**13** 12/12(水)3:00pm 12/23(土)5:00pm  
**鳩**(70分・DCP・白黒) *HOLUBICE*  
バルト海に浮かぶ西独領の島でレース鳩の帰りを待つ少女(イルマノヴォヴァー)。だが彼女の鳩はプラハにいた。鳩を撃って負傷させた車椅子の少年(スミチュク)と、その鳩を拾った芸術家(イルマノフ)が、心を通わせ始める…。ヴラーチルの長篇劇映画デビュー作で、チェコ・ヌーヴェルヴァーグの嚆矢とされる作品。象徴主義的なイメージと構築された映像美が観る者の心を強く打つ。  
1960(バランドフ撮影所) ⑧⑨ フランチェスク・ヴラーチル ⑩ オタル・キルシュネル ⑪ ヤン・チュジュク ⑫ オルドジヒ・ボサーク ⑬ スズニェク・リシュカ ⑭ カデジナ・イルマノヴォヴァー、カレル・スミチュク、ヴァーツラフ・イルマノフ、ハンス・ペーター・ラインケ、グスタフ・ビツェル

**14** 12/12(水)7:00pm 12/24(日)4:00pm  
**天井**(43分・DCP・白黒) *STROP*  
ヒチロヴァーの舞台芸術アカデミー映画・テレビ学部(FAMU)卒業制作作品。医大生からファッションモデルに転身した若い女性マルタ(カニョフスカ)が、華やかな生活とは裏腹に空虚感を募らせていく様が、シネマ・ヴェリテの撮影とスタイリッシュな編集で綴られる。FAMUの学生だったイジー・メンツル、ミロシュ・フォルマンが出演。1961年制作の本作は、翌年の『袋いっばいの蚤』と共に、1963年に上映された。  
1963(FAMU) ⑧⑨ ヴィエラ・ヒチロヴァー ⑩ ハヴェル・ユラーチェク ⑪ ヤロミール・ショフル ⑫ ヤン・クルサーク ⑬ マルタ・カニョフスカ、ユリアン・ヒチル、ヨゼフ・アブラム、ヤロスラフ・サトランスキー、イジー・メンツル、ミロシュ・フォルマン  
**袋いっばいの蚤**(45分・DCP・白黒・英語字幕付き) *PYTEL BLECH*  
『天井』同様にシネマ・ヴェリテ的手法を用いた作品。違反行動の多いヤナを中心に、女子寮の寮生たちの日常が、新入りエヴァ(チョチュコヴァー)の視点で生き生きと映し出される。カメラネガと1963年のヴェネツィア国際映画祭上映プリントから2012年に復元。  
1963(科学教育映画スタジオ) ⑧⑨ ヴィエラ・ヒチロヴァー ⑩ ヤロミール・ショフル ⑪ ヤン・クルサーク ⑫ ヘルガ・チョチュコヴァー

**15** 12/13(木)7:00pm 12/19(水)3:00pm  
**ホップ・サイド・ストーリー**  
(93分・DCP・カラー・英語字幕付き)  
*STARCI NA CHMELU*  
ホップ摘みの奉仕作業に来た高校生の一団。文学少年のフィリップ(アホルト)と、華やかなハンケ(パヴロヴァー)との間に芽生えた純愛の行方を描くミュージカル。キャッチーな楽曲と振付けに彩られた人気作で、「プラハの春」へと向かう若者たちの空気をとらえた感がある。いくつものミュージカル映画を手掛けた監督のリヒマンは、チェコのミュージック・ビデオの先駆者の存在でもあった。オリジナルネガと4トラック磁気サウンドトラックから2016年に復元。  
1964(バランドフ撮影所) ⑧⑨ ラジスラフ・リヒマン ⑩ ヴラチスラフ・ブラジエク ⑪ ヤン・スターヒ ⑫ オルドジヒ・ボサーク ⑬ イジー・バジヤント、イジー・マラーセク、ヴラスチル・ハラウ ⑭ ヴラジミール・アホルト、イヴァナ・パヴロヴァー、ミロシュ・ザヴァジル、イレナ・カチルコヴァー

**16** 12/13(木)3:00pm 12/24(日)1:00pm  
**夜のダイヤモンド**  
(67分・DCP・白黒・英語字幕付き)  
*DÉMANTY NOCI*  
「チェコ・ヌーヴェルヴァーグの恐るべき子供」と評されるニェムツの代表作の一つ。収容所へ向かう列車を脱走した二人の少年(ヤンスキー、クムベラ)。飢えや疲労と闘いながら歩き続ける彼らを、ドイツ人の老人たちから成る自警団の狙撃が狙う。回想や幻想のシーンを繰り返し挿入する手法が、少年たちの絶望的な不安と恐怖を描き出す。  
1964(バランドフ撮影所) ⑧⑨ ヤン・ニェムツ ⑩ アルノシュト・ルスティグ ⑪ ヤロスラフ・クチュラ ⑫ オルドジヒ・ボサーク ⑬ フランティシェク・チェルニー ⑭ ラジスラフ・ヤンスキー、アントニン・クムベラ、イルゼ・ビショフヴァー、ヤン・ジーハ、イヴァン・アスィチュ、アウグスト・ビショフ、ヨゼフ・ヨグ

**17** 12/14(木)3:00pm 12/19(水)7:00pm  
**嚴重に監視された列車**(93分・DCP・白黒・英語字幕付き) *OSTŘE SLEDOVANÉ VLAKY*  
イジー・メンツルの衝撃的な長篇デビュー作。第二次大戦期、ドイツ保護領となったチェコスロヴァキアの村で見習い職員として働くミロシュ(ネツカーシュ)は、恋人との性交渉を完遂できない自分に絶望し、自殺を試みる…。「社会」にならない少年の葛藤を通して、それを強いる男のいびつさが浮かび上がる。多用される夜や静寂の場面が、鮮烈なラストを一層際立たせる。  
1966(バランドフ撮影所) ⑧⑨ イジー・メンツル ⑩ ボフミル・フラハル ⑪ ヤロミール・ショフル ⑫ オルドジヒ・ボサーク ⑬ イジー・シュスト ⑭ ヴァーツラフ・ネツカーシュ、イトカ・ベンドヴァー、ヨゼフ・ソムル、ヴラジミール・ヴァレンタ、リプシェ・ハヴェルコヴァー

**18** 12/14(木)6:00pm 12/23(土)1:00pm  
**マルケータ・ラザロヴァー**(166分・DCP・白黒・英語字幕付き) *MARKETA LAZAROVÁ*  
チェコの映画批評家・記者から1998年にチェコ映画史上最も重要な作品として選ばれた叙事詩大作。中世の盗賊騎士団の争いにキリスト教と異教の対立を交え、敵対する首領(ケムル)の息子(ヴェレツキー)を愛したマルケータ(ヴァーシャーリオヴァー)の生き様を二部構成で描く。シネマスコープの硬質な白黒映像で前衛的な手法も駆使して作り上げたヴラーチルの壮大な“フィルム＝オペラ”。  
1967(バランドフ撮影所) ⑧⑨ フランチェスク・ヴラーチル ⑩ ヴラジスラフ・ヴァンチュラ ⑪ フランチェスク・ハヴリーチェク ⑫ ベドジフ・パチュカ ⑬ オルドジヒ・ボサーク ⑭ スズニェク・リシュカ ⑮ マグダ・ヴァーシャーリオヴァー、ヨゼフ・ケムル、フランチェスク・ヴェレツキー、イヴァン・バルーヒ、パヴラ・ボラーシュコヴァー

**19** 12/16(土)4:00pm 12/20(水)3:00pm  
**火事だよ! カワイ子ちゃん**(73分・DCP・カラー・英語字幕付き) *HORÍ, MÁ PANENKO*  
チェコ・ヌーヴェルヴァーグを代表する破壊的コメディ。地方の町の消防署が主催するダンスパーティーを舞台に、予定されていた催しが、勘違いや嘘などによってことごとく実行不可能となり、秩序が転覆していく。ギャグが止めどなく有機的に連鎖するさまは絶品。「プラハの春」に対する軍事介入・弾圧の流れに伴い、本作は「永久上映禁止」となり、フォルマンのチェコスロヴァキア時代の最後の作品となった。  
1967(バランドフ撮影所) ⑧⑨ カルロ・ボンティア・チネマトグラフィカ ⑩ ミロシュ・フォルマン ⑪ ヤロスラフ・パボウシェク、イヴァン・パッセル ⑫ ミロスラフ・オンドジーチェク ⑬ カレル・チェルニー ⑭ カレル・マレシュ ⑮ ヤン・ヴォストルケル、ヨゼフ・シェバーネク、フランチェスク・デベルカ

**20** 12/16(土)1:00pm 12/22(金)7:00pm  
**すべての善良なる同胞**(121分・DCP・カラー・英語字幕付き) *VŠICHNI DOBRÍ RODÁCI*  
モラヴィア地方の農村に暮らす人々の13年以上にわたる運命のドラマが、ユーモアとアイロニーを交えつつ、詩情豊かに描かれる。1950年代・60年代のチェコスロヴァキア映画を牽引した一人であるヤスニー監督は、本作でカンヌ映画祭監督賞を受賞したが、国内での「永久上映禁止」処分を受け、国外へ脱出した。オチナーシュ役のブロッキーは戦後のチェコスロヴァキア映画を代表する名優で、『嘘つきヤコブ』(1974, DEFA)の主演も務めた。  
1969(バランドフ撮影所) ⑧⑨ ヴォイチェフ・ヤスニー ⑩ ヤロスラフ・クチュラ ⑪ カレル・リール ⑫ スヴァトプラク・ハヴェルカ ⑬ ラドスラフ・ブルゾパティエー、ヴラスチル・ブロッキー、ヴラジミール・メンシーク、ヴァルデマル・マトウシュカ、ドラホミラ・ホフマノヴァー、ハヴェル・パヴロフスキー

**21** 12/17(日)4:00pm 12/22(金)3:00pm  
**アデルハイト**(104分・DCP・カラー・英語字幕付き) *ADELHEID*  
第二次大戦直後に帰国し、国境地帯ズデーテンで元ナチ高官の邸宅を管理することになった元チェコ将校(チェペク)が、彼の家政婦として働く高官の娘アデルハイト(チェルナー)と、閉塞的な環境の中で孤独のうちに心を通わせ、恋に落ちるが…。ヴラーチルのカラー映画第一作で、言語の異なる二人の心の機微と葛藤を濃密な映像で提示していく心理劇。  
1970(バランドフ撮影所) ⑧⑨ フランチェスク・ヴラーチル ⑩ ヴラジミール・ケルネル ⑪ フランチェスク・ウルドリフ ⑫ インドジフ・ゲツツ ⑬ スズニェク・リシュカ ⑭ ベル・チェペク、エマ・チェルナー、ヤン・ヴォストルケル、ハヴェル・ランドフスキー、ヤナ・クルピチュコヴァー、ルボミール・トルカ

**22** 12/17(日)1:00pm 12/21(木)7:00pm  
**新入りの死刑執行人のための事件**  
(107分・DCP・白黒・英語字幕付き)  
*PRÍPAD PRO ZAČÍNÁJÍCÍHO KATA*  
J・スウィフトの『ガリヴァー旅行記』第3篇を映画化した問題作。自動車事故から辛くも生還した男ガリヴァー(コステルカ)が、2つの国(バルニバービとラピュタ)を訪れ、悪夢のような不条理な体験をする。チェコスロヴァキア政府を過激に諷刺した本作は公開直後に禁止され、ユラーチェクの映画キャリアを終わらせてしまうこととなった。  
1970(バランドフ撮影所) ⑧⑨ ハヴェル・ユラーチェク ⑩ ジョナサン・スウィフト ⑪ ヤン・カリシュ ⑫ ミラン・ネイドリー ⑬ ルボシュ・フィシエル ⑭ ルボミール・コステルカ、クララ・イェルネコヴァー、ミレナ・ザフリノフスカ、ラドヴァン・ルカフスキー

**23** 12/15(金)3:00pm 12/20(水)7:00pm  
**ほうきに乗った女の子**  
(79分・DCP・カラー) *DÍVKNA NA KOŠTĚTI*  
魔法学校に通う女の子サクサナ(チェルノツカー)は、300年の居残りを命じられた放課後、人間界に44時間居られる魔法を使って逃亡。青年ホンザ(フルシンスキー)らと触れ合いながら、善悪や現実など多くのことを学ぶ。サクサナが起こす珍騒動を軸にしたスクールコメディで、全篇にトリック撮影を多用。主題歌は歌手チェルノツカーの代表曲となった。  
1972(バランドフ撮影所) ⑧⑨ ヴァーツラフ・ヴォルリーチェク ⑩ ヘルミナ・フランコヴァー、ミロシュ・マコウレク ⑪ ヴラジミール・ノヴォトニー ⑫ オルドジヒ・ボサーク ⑬ アンゲロ・ミハイロフ ⑭ ベトラ・チェルノツカー、ヤン・フルシンスキー、ヤン・クラウス、フランチェスク・フィリポフスキー、ヴラジミール・メンシーク

**24** 12/15(金)7:00pm 12/21(木)3:00pm  
**アデラ／ニック・カーター、プラハの対決**  
(107分・DCP・カラー・英語字幕付き)  
*ADÉLA JEŠTĚ NEVEČERĚLA*  
『レモネード・ジョー 或いは、ホースオペラ』(1964)のリブスキー&ブルデチュカコンビが再び組んだ快作喜劇。アメリカの名探偵ニック・カーター(ドチヨロマンスキー)が、プラハで謎の食人植物アデラと対決する。怒涛のごとく繰り出されるギャグやギミックが、映画草創期に大流行した連続活劇の娯楽精神を甦らせる。  
1978(バランドフ撮影所) ⑧⑨ オルドジヒ・リブスキー ⑩ イジー・ブルデチュカ ⑪ ヤロスラフ・クチュラ ⑫ ミラン・ネイドリー、ヴラジミール・ラフスキー ⑬ 特別出演 ヤン・シュヴァンクマイエル ⑭ ルボシュ・フィシエル ⑮ ミハル・ドチヨロマンスキー、ルドルフ・フルシンスキー、ミロシュ・コベツキー、ラジスラフ・ベジク、ナジャ・コンヴァリンコヴァー

**ピアノ伴奏** [出演順]  
**小林弘人**(こばやし・ひろと) / 作曲、ピアノ  
東京藝術大学音楽学部作曲科卒、同大学院修了。2004年東京国際映画祭に出演。東京国立近代美術館フィルムセンターのほか、神保町シアターに定期的に出演している。東京藝術大学、東京音楽大学、洗足学園音楽大学講師。  
**天池穂高**(あまいけ・ほたか) / 作曲、ピアノ  
東京藝術大学音楽学部作曲科卒業、同大学院修了。2003年、フィルムセンター「小津安二郎の藝術」にて、初めてサイレント映画の伴奏を担当。作編曲活動に加えて、バレエのレッスンピアニストとしても活動している。

**柳下美恵**(やなした・みえ) / 即興・ピアノ  
武蔵野音楽大学ピアノ専攻卒業。映画生誕100年記念上映会でデビュー以来、国内・海外で活躍。欧米スタイル(音楽伴奏)の無声映画伴奏者は日本初。洋画・邦画を問わず全ジャンルの伴奏をこなす。2006年度日本映画ペンクラブ奨励賞受賞。  
**神崎えり**(こうさき・えり) / ピアノ  
国立音楽大学作曲学科、バリ国立高等音楽院ピアノ即興演奏科卒業。作曲家・即興演奏家・ピアニストとして国内外で活躍し、即興演奏による映画伴奏にも力を入れている。ポルデノーネ無声映画祭など欧州の国際映画祭にて招待演奏を行い、高い評価を得ている。

日本におけるチェコ文化年2017 チェコ映画の全貌  
Tracing the Czech Cinema at The Year of Czech Culture 2017

月	火	水	木	金	土	日
11月	27 11:00am開館 1 大聖堂の建築者 3:00pm (40分) 暗闇の訪れ (65分) 2 悪党の女たち 7:00pm (113分)	11:00am開館 3 バタリオン 3:00pm (99分) 4 エロティコン 7:00pm (89分)	11:00am開館 5 これが人生 3:00pm (75分) 3★ バタリオン 7:00pm (99分) ピアノ伴奏:小林弘人	11:00am開館 6 勇敢な兵士シュヴェイク(79分) 5★ これが人生 7:00pm (75分) ピアノ伴奏:天池穂高	11:00am開館 2★ 悪党の女たち 12:00pm (113分) ピアノ伴奏:柳下美恵 4★ エロティコン 4:30pm (89分) ピアノ伴奏:柳下美恵	11:00am開館 6★ 勇敢な兵士シュヴェイク(79分) ピアノ伴奏:神崎えり 1★ 大聖堂の建築者 4:00pm (40分) 暗闇の訪れ (65分) ピアノ伴奏:神崎えり
	4 8 土曜から日曜へ 3:00pm (73分) 7 絞首台のトンカ 7:00pm (87分)	11:00am開館 10 クラカチット 3:00pm (102分) 9 サイレン 7:00pm (78分)	11:00am開館 7 絞首台のトンカ 3:00pm (87分) 11 お人好しの兵士シュヴェイク(111分)	11:00am開館 9 サイレン 3:00pm (78分) 12 閣下に報告 7:00pm (96分)	11:00am開館 8 土曜から日曜へ 12:30pm (73分) 10 クラカチット 4:00pm (102分)	11:00am開館 11 お人好しの兵士シュヴェイク(111分) 12 閣下に報告 4:00pm (96分)
12月	11 13 鳩 3:00pm (70分) 14 天井 7:00pm (43分) 袋いっばいの蚤 (45分)	11:00am開館 16 夜のダイヤモンド 3:00pm (67分) 15 ホップ・サイド・ストーリー 7:00pm (93分)	11:00am開館 17 厳重に監視された列車 3:00pm (93分) 18 マルケータ・ラザロヴァー 6:00pm (166分) ブラハの対決 (107分)	11:00am開館 23 ほうぎに乗った女の子 3:00pm (79分) 24 アデラ/ニック・カーター、ブラハの対決 7:00pm (107分)	11:00am開館 20 すべての善良なる同胞 1:00pm (121分) 19 火事だよ! カワイ子ちゃん 4:00pm (73分)	11:00am開館 22 新入りの死刑執行人のための事件 1:00pm (107分) 21 アデルハイト 4:00pm (104分)
	18 15 ホップ・サイド・ストーリー 3:00pm (93分) 17 厳重に監視された列車 7:00pm (93分)	11:00am開館 19 火事だよ! カワイ子ちゃん 3:00pm (73分) 23 ほうぎに乗った女の子 7:00pm (79分)	11:00am開館 24 アデラ/ニック・カーター、ブラハの対決 3:00pm (107分)	11:00am開館 21 アデルハイト 3:00pm (104分) 20 すべての善良なる同胞 7:00pm (121分)	11:00am開館 18 マルケータ・ラザロヴァー 1:00pm (166分) 13 鳩 5:00pm (70分)	11:00am開館 16 夜のダイヤモンド 1:00pm (67分) 14 天井 4:00pm (43分) 袋いっばいの蚤 (45分)

■ 作品によって開映時間が異なりますのでご注意ください。 ★印の回はピアノ伴奏付で上映します。

**展示室(7階)**

**[企画展]**  
生誕100年 ジャン=ピエール・メルヴィル、暗黒映画の美  
Jean-Pierre Melville, cinéaste du noir  
2017年9月26日(火)~12月10日(日)  
\*月曜日は休室  
主催: 東京国立近代美術館フィルムセンター、ノクテュルヌ・プロデュクション  
協力: 在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ 日本、KADOKAWA、マーメイド・フィルム、PFF(びあフィルムフェスティバル)  
協賛: エルメスジャパン株式会社  
映画監督ジャン=ピエール・メルヴィルが生誕100年を迎える本年、フィルムセンターは、ドキュメンタリー『コードネームはメルヴィル』(2008年)の監督オリヴィエ・ポレル氏が長年収集してきた資料を中心にその孤高の生涯と業績を振り返ります。メルヴィルの“黒”の世界に触れてみてください。  
\*詳細は当該チラシまたはフィルムセンターのホームページをご覧ください。

**[常設展]** 企画展に併設  
NFCコレクションでみる日本映画の歴史  
Nihon Eiga: The History of Japanese Film From the NFC Non-film Collection  
[Captions in Japanese and English]  
開室時間=午前11時~午後6時30分(入室は午後6時まで)  
料金(企画展・常設展共通)=一般250円(200円)/大学生・シニア130円(60円)/高校生以下及び18歳未満・障害者(付添者は原則1名まで)、MOMATバスポートをお持ちの方、キャンパスメンバーズは無料  
\*( )内は20名以上の団体料金です。  
\*学生、シニア(65歳以上)、障害者、キャンパスメンバーズの方は、証明できるものをご提示下さい。  
\*フィルムセンターが主催する上映会をご覧になった方は当日に限り、半券のご提示により団体料金が適用されます。

**常設展ギャラリートーク**  
毎月第一土曜日12時より(休室の場合は第二土曜日)12月2日

**講演会のお知らせ**

「チェコ映画の革新—チェコ・ヌーヴェルヴァーグの時代—」(仮)  
日時: 2017年12月9日(土) 1:45-2:45pm  
講演者: ミハル・ブレガン Michal Bregant (チェコ国立フィルムアーカイブCEO)  
\* 逐次通訳つき  
\* 入場無料  
\* 当日1回目の上映をご覧になった方は、そのままトークイベントに参加することができます。トークイベントのみの参加もできます。

**巡回上映情報**

会場: 京都国立近代美術館  
会期: 2017年12月1日(土)、2日(日)  
会場: 福岡市総合図書館 映像ホール・シネラ  
会期: 2018年2月1日(土)から2月25日(日)  
\*休館日: 月曜日、火曜日

**図書室カレンダー** 赤字は休室日

12月

月	火	水	木	金	土	日
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

**図書室(4階)**  
開室=火曜日~土曜日(午後0時30分~午後6時30分)/入室は午後6時まで 閉室=休館日および日曜日・祝日

2階受付では、「NFCニュースレター」(季刊)を販売しています。これは、フィルムセンターのさまざまな催し物や事業の情報、上映番組の解説、予告等はもちろんのこと、世界のフィルムアーカイブやシネマテークの紹介、映画史研究の先端的成果の発表などを掲載する機関誌です。どうぞご利用下さい。

東京国立近代美術館フィルムセンターは、国際フィルムアーカイブ連盟(FIAF)の正会員です。FIAFは文化遺産として、また、歴史資料としての映画フィルムを、破壊・散逸から救済し保存しようとする世界の諸機関を結びつけている国際団体です。

**fiaf**

フィルムセンター 〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6  
▼交通:  
東京メトロ銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分  
都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分  
東京メトロ有楽町線銀座一丁目駅下車、出口7より徒歩5分  
JR東京駅下車、八重洲南口より徒歩10分

お問い合わせ: ハロ-ダイヤル03-5777-8600  
NFCホームページ:  
<http://www.momat.go.jp/>